

ヨハネの福音書 第3章 8節

「風はその思いのまま吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

青空一杯の冬晴れが午後まで続いた。そして西の空から厚い雲が広がってきた。雲に乗ってだろうか、雲を押し流してだろうか強風が吹き始める。葉がすっかり落ちた街路樹の枝が音をたてて揺れ、常緑樹の木立は風をまともに受けてたわむ。風の勢いとともに木立の枝がかなでる音色が変わる。常緑樹のざわつきも変化する。聞く者には、音が届く。

風は創造主の導くままに吹く。しかし、ここでの風は、その思いのまま吹く。風が主体となって思いのまま吹く。その音を聞くことができる。どのような音の響きだろうか。木立の枝を揺さぶりピューピューとたてる音ではない。常緑樹をざわつかせる音でもない。思うお方の息が込められる言葉が音となる。その言葉によって新しい人が生まれる。

この方がもたらす風、みことばを聞くととき新しい人が生まれる。それがどこから来てどこへ行くかを知らない。風の越し方、行方は人の手中にあるのではなく、思いのまま吹くお方、御霊ご自身にある。

2022年1月4日